

駒澤大学

番場ゼミ

赤尾チーム

「防災から始まる街と人とのコミュニケーション」

参加メンバー（敬称略）	
チームリーダー：赤尾 朋紀（3年）	
大島 太一（3年）	高橋沙也加（3年）
北原 桃子（3年）	
指導教員：番場 博之（経済学部大学院商学研究科 教授）	

「防災から始まる街と人とのコミュニケーション」要旨

■ 二子玉川地域のイメージと問題提起

二子玉川は自然豊かな公園があると同時に、都心へのアクセスが便利な、人気のある住宅都市である。交通機関やショッピングモールが充実しており、生活に不便がないように見える。そんな二子玉川の地域住民が抱えている問題を明らかにするために、地域に関するアンケート調査を行った。

二子玉川の地域コミュニティの実態を調査した結果、二子玉川独自の問題が浮き彫りになった。それは、二子玉川の住民は日常での地域のつながりというものが薄く、関係が家族内だけに留まってしまっているということである。さらにその中でも「地域コミュニティが希薄化している街で、実際に災害時などの非常事態に地域で連携し、助け合うことができるのだろうか」という不安の声が多く挙げられた。

■ 提案内容と目的

調査の結果から浮かび上がる問題は、コミュニティが希薄化しているという実態の中で、災害時などの非常事態に、地域で連携して助け合える関係が築かれていないのではないかということである。

そこで、私たちは、防災への意識を向上させる対策をとるとともに、地域のコミュニティを強化することを提案する。地域全体が防災対策の意識を高めることで、「災害に強い街」を目指し、安心・安全なまちづくりを進める。防災意識を高めるための取り組みは2つある。1つ目は、イベント形式で防災訓練を行う「防災フェスティバル」を開催することで、幅広い世代の人が楽しく参加できるようにする取り組みである。2つ目は、地域住民が恒常的に防災意識を持ち続けるために行う「防災手帳」の配布である。

以上の防災を軸とした2つの取り組みを通して、住民同士のコミュニケーションの改善、街全体の防災への意識改革を実現し、「災害に強い二子玉川の街」を確立する。

防災から始まる街と人とのコミュニケーション

駒澤大学 番場ゼミ

赤尾 朋紀

大島 太一

北原 桃子

高橋 沙也加

防災から始まる 街と人とのコミュニケーション

二子玉川のイメージ

- ★東急riseによってつくられた新しい街
- ★治安が良く、子育てに人気
- ★都心に近いが、自然豊かな公園がある

Q.日頃、近隣の人と
コミュニケーションをとっていますか？

A.1

地域住民のつながりが見えにくく、家族内だけの関係にとどまっている傾向がある

いざというとき(災害・不審者)に地域の人が子どもを守ってくれるか不安

A.2

理想のまちの姿

- ★安心して子育てできる街
地域で子どもを見守り育てる環境づくりをしていく必要がある
- ★いざとなった時に助け合える関係づくり
単身世帯が多いため、日頃から近隣の人と顔見知りになっておく機会をつくる

★防災という切り口で 地域のつながりを深める

防災を軸にした取り組みを通して地域全体が防災に対する共通のビジョンを持つことで、住民のコミュニティを強化し、安心・安全なまちづくりを目指す

具体策①

防災フェスティバル

①炊き出し

商店街で分担して炊き出しをする
住民だけではなく**帰宅困難者の食料確保**のためにもなる

②乾パンクッキング・缶詰を使った料理教室

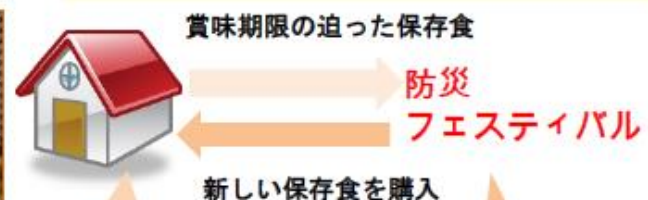
缶詰や乾パンなどの保存食を使った料理教室を開催。また、新たに保存食を購入する機会にする



※「東日本大震災被災者支援 ADRA」HPより

③Clean Walk

地域ごとの班で家から避難経路のゴミ拾いを行うことで、避難経路や全国的に広まりつつある「通り名」を覚える



新しい保存食
をストック

調理・消費



具体策②防災手帳の配布

日常的に防災意識を高めてもらう活動として、「防災手帳」を配布する。防災手帳とは、携帯していると便利な、「防災グッズ」として役立つ機能を付けた手帳である。

【一般タイプ】



※デザインのイメージ

【ママ専用】



主婦向けには、子どもの成長記録ノートの機能が付いた手帳を配布する手帳自体を子ども会の会員証とし、手帳を機に子ども会を立ち上げられるようにする。小学生は子ども会に所属することで防災イベントへの参加も徹底される。

〈防災機能〉

①防災BOOK機能

災害に備えての避難袋の中身や非常食の紹介、役に立つ豆知識、震災の体験談、豆知識

②お薬手帳

震災でカルテが紛失してしまい、これまで服用していた薬が分からなくなってしまっても、お薬手帳があれば、処方箋なしで薬を受け取ることができる

③地図

東京都が指定する帰宅支援対象道路、帰宅支援ステーションを記してある市販の「震災時帰宅支援マップ」のようなものに地域の避難所やイベントの場所を付け加えた便利な防災マップ

防災MAP



二子玉川小学校
避難所



ゾーン30

玉川3,4丁目のエリアでは最高速度を30km・hに規制し安全な生活道路にする対策がされている



※世田谷区HPより



二子玉川公園
ビアガーデン

I 現状・問題

(1)住みやすい街二子玉川

現在、二子玉川は東急電鉄と東急不動産が参画して、再開発が進められている地域である。都心へのアクセスが良く、ショッピングモールである rise やスーパーマーケット、商店街があり、買い物にも困らない生活を送ることができる人気の住宅都市である。世田谷区は都心に近い街でありながら、大きな公園がいくつもあり、自然に恵まれている。そのため、二子玉川に移住してくる人が増え、人口は増加傾向にある。

(2)隠された問題

このようなイメージがある二子玉川の街には、本当に何の問題もないのであろうか。街の現状を知るために、2014年7月8日に二子玉川商店会振興組合を訪ね、調査を行った。商店街を利用している人の客層は、若者とお年寄りに二極化されており、若者は一人暮らしの人が多くみられる。駅前にできたショッピングモール rise の影響により、商店街へ足を運ぶ人が減少しているのではないかと予想していた。しかし、実際には rise がテレビに取り上げられるようになったことで、二子玉川に足を運ぶ人が増え、商店街にとってもプラスの影響をもたらしていることがわかった。

現在、二子玉川商店街では多数のイベントを行うことで、地域住民同士の交流を深める活動を行っている。3年前に起きた東日本大震災時には、街は帰宅困難者であふれ、大きな混乱を招いた。これからさらに都市開発が進み、人が増えることを予想すると、より安全で活気のあるまちづくりが必要である。そのためには「コミュニティの強化」、「住民の防災への意識向上」を図る必要がある。「何かあった時に商店街に集まれば安心でき、人が集う愛着のある場所にしたい」という振興組合の方の意見にもあるような姿を目指す。

(3)商店街の利用状況

実際に商店街を利用する人の性別・年齢層・目的を調査するために、8月15日に二子玉川 rise 内のオークストリートにて105人を対象にアンケートを行った。アンケートの内容は「商店街の利用状況と目的」、「地域のコミュニティに関するもの」である。商店街の利用状況については、「住まいの商店街を利用する」と答えた人は66%、「利用しない」と答えた人は34%と多くの人が商店街を利用している結果になった(図1参照)。しかし、具体的な利用店舗は個人経営のお店より、コンビニエンスストア・ドラッグストアなどのチェーン店の利用の方が多いたことが明らかとなった。これは、チェーン店の商店街への新規参入による、個人経営店の減少が理由に挙げられる。

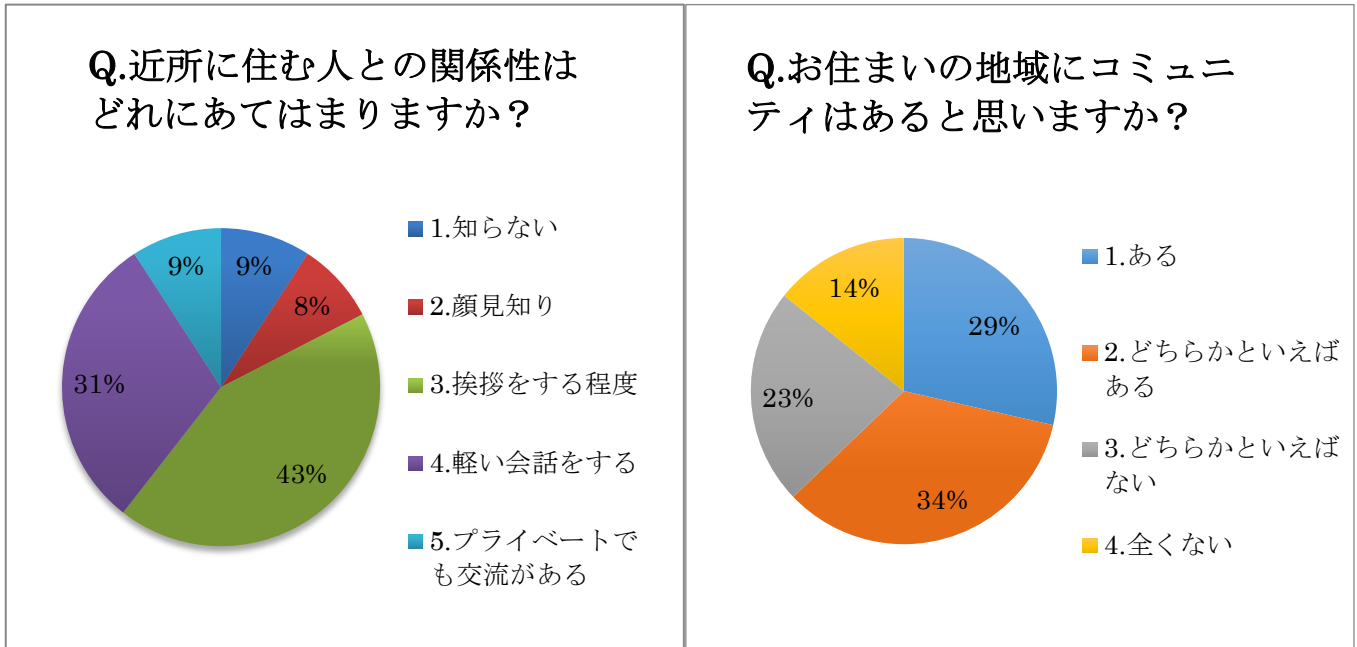
(4)地域コミュニティの実態

次に地域のコミュニティに関するアンケート結果について説明する。地域のコミュニティ関係を伺ったところ、「地域のコミュニティはある・どちらかといえばある」と答えた人は64%と全体の過半数に達する(図2参照)。しかし、この結果に関わらず、地域の人との関係について、問題・不安を抱えているという声が多くあった。「今後大きな災害が起きた時に、地域の人と連携を取って避難することができるだろうか」、「親の留守中に災害が起きた場合、子供が心配だ」というものである。災害時だけに限らず、「引っ越してきて、地域の輪に溶け込めず、親睦を深める機会もない」という悩みもあった。コミュニティがあると答えた人の中でも、震災が起きた際に支えあったことがあるという体験はなく、関係性を深める場を増やしてほしいとの声も多くあった。

アンケート結果からみられることは、玉川地区には小学校があることなどを踏まえ、子どもを通じてつくられる一部のコミュニティはあると言える。しかし、それ以外の世代の方や外部からの転居者にとってはコミュニティと呼べるものがないため、街全体として災害に対応できるほどの関係が築かれていないということがわかった。

(図 1)

(図 2)



II 具体的な対策案①

(1)防災フェスティバルの開催

突然、災害に見舞われたことを想定しておくことが一番の備えになると考え、新たなイベントとして「防災フェスティバル」の開催を提案する。ここでは、商店街のお店ごとに役割分担を決め、様々な催し物を運営する。

① 炊き出し

災害時は地域住民だけでなく、多くの帰宅困難者が想定されるため、大量の食料確保が必要になる。もしもの時に備え、イベントの中で練習としての機会を設けることで、冷静に対応できるのである。

② 乾パン・缶詰クッキング

各家庭で備えとして保存されている乾パンや缶詰は、普段食べられることはほとんどなく、知らぬ間に賞味期限が切れているということが多くある。これを防ぐために、保存食を持ち寄り、主婦をメインターゲットとした料理教室を開催する。保存食を無駄なく使い切り、試食をしながら交流を深めてもらう。また、新たに保存食を販売し、購入してもらう機会を設け、身近に感じてもらうことを目的としている。

③ Clean Walk

玉川1丁目、2丁目、3丁目、4丁目を区切りとして班を形成し、自宅から避難場所までの避難経路のゴミ拾いを新たな試みとして定期的に行うことで、経路の再確認を促進する。また、玉川地域にある通りの名前を募集し、親しみを持ってもらうという活動が行われているので、この活動とも絡めて避難経路を身近に感じてもらう工夫を施す。

この「防災フェスティバル」は、地域のお祭りとして位置づけて、お祭りとして、だれもが気軽に参加し、楽しみながら防災活動に触れてもらうことが大きな目的である。

(2) 日常の防災意識の向上

防災フェスティバルによって身近に感じられた防災への意識を、普段の生活の中でも継続させるために「防災手帳」を配布する。防災手帳とは、1冊携帯していればそれ自身が「防災グッズ」となるよう、防災 BOOK 機能、お薬手帳機能、防災マップ機能をつけた便利な手帳である。防災 BOOK 機能というのは、実際に書店で販売されている「防災 BOOK」を参考にしたものである。防災 BOOK には、いざというときに身を守ることのできるさまざまな防災グッズが紹介されているほか、こうした物質的な備えだけではなく、いつどこで起こるかわからない自然災害で、とっさに冷静な判断をするための知恵も身につけることができるため、精神的な備えとなり、とても役立つものなのである。

この機能に加え、処方箋なしで薬を受け取ることのできるお薬手帳機能と、防災マップというものをつける。防災マップというのは、東京都が定めている「帰宅支援対象道路」や「帰宅支援ステーション」、避難場所（二子玉川小学校・二子玉川公園）までの経路を掲載したマップである。玉川3丁目、4丁目では車の通行速度を30kmに規制し、安全な生活道路にする「ゾーン30」という対策によって、日ごろから安全な道路を保つ工夫がされ、災害時には、建物が倒壊しても交通への影響が少ない幹線道路を歩行できるようになっている。このような道路を一目でわかるような地図を作り、災害時に交通機関が使用できなくなったときに有効活用できるようにするのが防災マップである。これは、帰宅困難者の減少にもつながると考えられる。

以上の機能が付いた防災手帳であるが、二子玉川独自の特徴を盛り込んだ子育てママ専用の手帳と一般タイプの2タイプを提案する。両タイプとも、1年間のスケジュール帳のページを設け、二子玉川で行われるイベントの開催日を把握できるようにする。また、ママ専用の防災手帳には「子供の成長記録」を書き込める機能をつける。この機能を作ることで、常に手帳を手取るきっかけづくりになり、長期にわたっての使用が実現できる。また、現在二子玉川には小学校に「子ども会」がない。そのため、このママ専用の手帳を子ども会の「会員証」としても機能させることで、新たな子ども会の設立の土台にする。手帳を通じてママ友のつながりが増え、子どもたちの防災フェスティバルへの参加の促進にも役立てることができる。

この「防災手帳」は、スマートフォンや携帯電話のような、常に持っていないと不安になってしまうほどの必需品という位置づけにし、この一冊があれば災害時に対応できるようにする。電子機器タイプではなく、紙製にすることで、充電切れなどの心配がない、いつでも使える「防災グッズ」なのである。

Ⅲ 具体的な対策案②

防災フェスティバルや防災手帳によって、地域住民の防災への意識が向上しても、それが個人の中で完結してしまっただけでは意味がない。住民同士の防災に対するビジョンが共有されてこそ意味をなすのである。そこで住民同士のコミュニケーションを補完する役割としての交流の場を設ける。すでに花火大会などのイベントが行われているが、規模が大きいため、地域の人々の交流はうまく回れない。そこで新たに、地域密着型のイベントを提案し、深くコミュニケーションをとれ、気軽に参加できるものにする。

(1) 二子玉川ビアガーデン

玉川地域には、都内にいるとは感じられないほどに自然が身近に体感でき、本格的な日本庭園まである、二子玉川公園がある。平成25年4月に新設されたこの公園を拠点にビアガーデンを開催する。地域住民の交流の場になることはもちろんのこと、商店会が運営することで、自分のお店の商品をPRする場所としても利用でき、普段どのような取り組みをしているのかということを知ってもらう機会を作ることが目的である。7月から9月の3か月間の開催とし、会社帰りのサラリーマンやその家族をメインターゲットとする。さらに、昼間はカフェとしても利用できるように、お菓子屋などの軽食を置き、夜はお酒のつまみになる、商店街のお店が提供するメニューをそろえ、女性や車で来場される方も視野にいれたノンアルコールメニューも取りそろえる。また、広場にあるステージは、

世田谷のアイドル「SETADOLL」や二子玉川小学校のクラブ活動の発表の場として利用することで、会場を盛り上げるきっかけを作る。さらに、世田谷区内で栽培された有機野菜を使った料理を提供することで、世田谷ブランドを売り出していく。

(2)商店街ファッションショー

二子玉川商店街は200メートル前後のまっすぐな一本道にお店が立ち並んでいるというつくりになっている。二子玉川には多くのアパレルショップが軒を連ね、若者向けのカジュアルなものから、高級感漂うブランド物までである。この条件を利用し、幅広い年齢層をターゲットにしたファッションショーを開催する。また、世田谷区内の大学生や地域住民参加型の企画を行うことで、学生との交流も図ることができる。開催時期は春、夏、秋、冬の年に4回行い、お店の一押し商品をはじめ、様々な商品のPRの場として利用してもらおう。ランウェイを歩いてもらうのはモデルの方から地域の大学生、商店街の方にも参加していただき、地域の人全員で作上げるファッションショーにする。また、現在商店街で地域交流のために行われている「アート&マート」と協賛して、子どもたちにTシャツをデザインしてもらおう。実際に子どもたちに、それを着てランウェイを歩いてもらい、気に入ったデザインのものはその場で購入できる仕組みを作ることで話題性をあげる。

IV まとめ

(1)目指す街の理想像

二子玉川はriseの建設などの再開発が刻々と進み、なんの不便なく生活していける街である。これに加え、防災に関する意識が高まった街にすることで、「防災に強い二子玉川の街」を実現する。市街化が進み、さらには狭隘な道路が多い玉川の街に住むうえで、災害時の備えは必要不可欠なものである。イベントの開催に伴い、参加者に配布される「防災手帳」をきっかけに普段の生活からも意識付けを図ることで、個人単位または家族単位での効果を期待する。イベントの開催時だけにとどまらず、日常生活の中で手帳を持ち歩くことで、継続した防災への意識を持続させる。この意識の向上を街ぐるみで行うことで、街全体の意識改革が実現できる。地域住民同士のコミュニケーションの改善、防災に対する知識や意識の向上は住民たちにとっての生活水準の向上への手助けとなるだろう。災害が起こった際に、一人ひとりが冷静な判断で助け合いながら避難し、安否確認のネットワークを広げることが、街としての確固としたシステムの確立となる。

(2)新たな地域コミュニティの誕生

防災への意識改革が行われ、新たな住民同士の統一感が生まれた二子玉川には、いままでとは違うつながりが生まれる。不安要素として挙げられていた「近隣住民との関係の浅さ」、「すでに住んでいる人と転入者との関係」が解決されることで、住民同士の関係性に深みが出て、開発されている新しい街の中に、下町にみられるような「人情味」という魅力が誕生する。人が街を守り、街が人を守るという相互の関係が内部の結束力を高める。うわべだけの付き合いではなく、どんな世代・家庭でも歓迎される街の雰囲気が構築されることで、私たちが提案する解決策が意味を成す。住民たちが織り成す「古き良き風習」と都市開発の「新しさ」のマッチングがつくり出す、二子玉川の真の魅力が誕生する。

アンケート集計結果

玉川地区地域コミュニティ希薄化についてのアンケート

(10代・20代・30代・40代・50代・60代)
(世田谷区在住・それ以外)

●隣家または部屋に住んでいる人との関係は次のうちどれに当てはまりますか

1. 知らない
2. 顔見知り
3. 挨拶をする程度
4. 軽い会話をする
5. プライベートでも交流がある

●お住まいの地域にコミュニティはあると思いますか

1. ある
2. どちらかといえばある
3. どちらかといえばない
4. 全くない

1または2を選ばれた方

→ コミュニティがあつて助かったこと・困ったことはありますか

3または4を選ばれた方

→ コミュニティがなくて助かったこと・困ったことはありますか

●お住まいの地域にある商店街を利用しますか

1. 利用する(具体的にどのようなお店を利用しますか)
2. 利用しない

理由(どのようなお店を利用していますか)

ご協力ありがとうございました

番場ゼミ課題研究チーム

1. 隣家または、隣の部屋に住んでいる人との関係は次のうちどれに当てはまりますか																
2. お住まいの地域にコミュニティはあると思いますか																
3. お住まいの地域にある商店街を利用しますか																
1. 隣家または、隣の部屋に住んでいる人との関係は次のうちどれに当てはまりますか																
	10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		小計		合計	
	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外		
1. 知らない	0	1	3	1	0	1	1	0	0	0	2	0	6	3	9	
2. 顔見知り	0	2	0	1	2	0	0	1	1	0	1	0	4	4	8	
3. 挨拶をする程度	5	7	5	6	3	3	1	6	3	4	1	1	18	27	45	
4. 軽い会話をする	1	0	4	2	2	1	8	2	6	1	2	3	23	9	32	
5. プライベートでも交流がある	0	0	0	1	1	0	0	1	2	2	2	2	5	6	11	
															105	
2. お住まいの地域にコミュニティがあると思いますか																
	10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		小計		合計	
	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外		
1. ある	0	2	2	3	2	3	4	6	3	2	3	3	14	19	33	
2. どちらかといえばある	1	3	5	4	1	2	4	3	4	2	1	3	16	17	33	
3. どちらかといえばない	4	3	2	3	3	0	2	0	4	3	0	0	15	9	24	
4. ない	1	2	3	1	2	0	0	1	1	0	4	0	11	4	15	
															105	
3. お住まいの地域にある商店街を利用しますか																
	10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		小計		合計	
	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外	世田谷区	それ以外		
1. 利用する	3	2	6	4	6	3	5	5	7	4	4	5	31	23	54	
2. 利用しない	3	8	6	7	2	2	5	5	5	3	4	1	25	26	51	
															105	

参考文献

- [1]二子玉川商店街青空アート&マート 公式ガイドブック
- [2]二子玉川商店街マップ付きガイド
- [3]フタコノオト 2013年4・5月号
- [4]せたがや 地域版 No.1495
- [5]ふたこたまご通信 Vol.7
- [6]二子玉川東地区第一種市街地再開発事業オフィシャルサイト (2014/08/26 アクセス)
<http://www.futakotamagawa-rise.com>
- [7]世田谷区 HP (2014/09/02 アクセス)
<http://www.city.setagaya.lg.jp/index.html>
- [8]総務省統計局 HP (2014/09/05 アクセス)
<http://www.stat.go.jp/index.htm>
- [9]世田谷区二子玉川商店街振興組合の理事、橘 たか様へのヒアリング調査
2014/7/8 (火) 13:00~
- [10]世田谷区二子玉川駅 Rise 敷地内でのアンケート調査
無差別、男女 105 人 2014/8/15 13:00~
- [11]世田谷区基本構想
- [12]世田谷区基本計画
- [13]世田谷区の概況
2014/4/25 世田谷区配布資料
- [14]中田実・小木曾洋二・山崎丈夫「地域再生と町内会・自治会」2009/3/30
- [15]日本調剤 | 全都道府県に展開する調剤薬局チェーン (2014/09/13 アクセス)
<http://www.nicho.co.jp/>
- [16]母子健康手帳について | 厚生労働省 (2014/09/13 アクセス)
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/boshi-hoken/kenkou-04.html
- [17]公益社団法人全国子ども会連合会 (2014/09/15 アクセス)
[<http://www.kodomo-kai.or.jp/>]
- [18]鉄尾周一 『新装版女性のための防災 BOOK』 2014/10/1 発行

